

リニューアル開館1周年を迎えて

旅の図書館は当財団調査研究部門とともに東京都港区南青山に移転し、「観光の研究や実務に役立つ図書館」をコンセプトとする新たな図書館として2016(平成28)年10月にリニューアル開館しました。再開館後も多くの皆様にご来館いただき、本年10月、無事リニューアル開館1周年を

迎えることができました。皆様には、これまで当館の運営に多大なるご協力を賜り心より御礼申し上げます。

本号では、リニューアル開館1周年を記念して、再開館後約1年間(2016年10月3日～本年8月末までの11ヶ月間)の来館者の動向や運営状況についてご紹介します。



1. 来館者の動向(傾向)

再開館後11ヶ月間の開館日数は191日で、この間の来館者数は延べ2,796人、一日当たりの来館者数の平均は14.6人でした。

入館時の利用申請記録より来館者の傾向を見ると、来館回数は、移転後「初めて」の方が61.9%、「再来館」の方が38.1%で、各月とも新規来館者が6～7割、リピーター(2回以上来館された方)が3～4割となっています(10月はほぼ「初めて」の方が多いため、2016年11月～2017年8月の10ヶ月間で集計)。来館者の中には、旧館の時代からご利用いただいている方も少なくありませんが、移転後に初めて当館を知ってお越しになられる方も多くおられます。

性別では男性1,371人(49%)、女性1,425人(51%)とほぼ半々。年代別では①20代(21.2%)、②40代(19.7%)、③50代(18.8%)、④60代(16.0%)、⑤30代(14.5%)の順で、幅広い年代にご利用いただいています(無回答を除く)。

旧館時代の「テーマのある旅を応援する図書館」から「観光の研究や実務に役立つ図書館」へとコンセプトを変更したことにより、来館者層も変わりつつあります。

来館者を職業別に見ると、①その他(37.8%)、②学生(17.7%)、③観光実務者(宿泊業、旅行業、交通事業、観光関連団体、省庁・自治体、調査機関・シンクタンク、マスコミ)(23.5%)、④無職(14.4%)の順となっています(無回答を除く)(図1)。リニューアル後当館が主たる利用者に想定している観光の研究者、実務者および学生の利用割合は全体の約5割、また来館目的では、「調査・研究」「仕事での利用」が41.1%となっています(図2)。

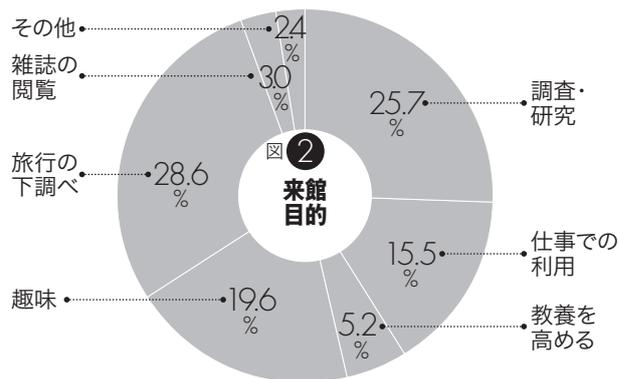
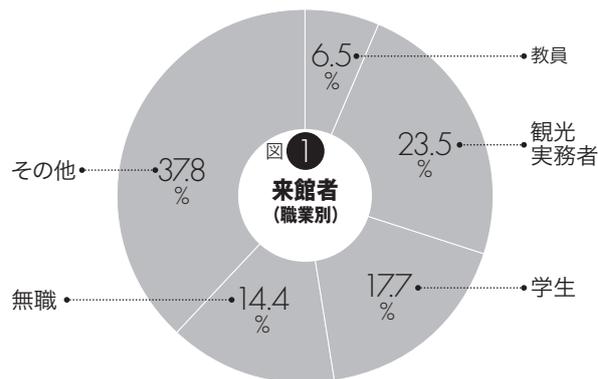
来館者の中でも予想以上に利用の多かったのが学生です。特に8～11月の夏から秋にかけての時期は、論文や文献探し等を目的とした学生の利用が目立ちました。

また、観光の研究者(大学教員など)や実務者の中には、北海道や沖縄など遠方からはるばるお越しになる方や、一週間連日資料をお調べに来館される方もおり、当館の資

料がお役立ていただけていることをありがたく思っています。

一方で、観光の実務者、とりわけ地域の観光行政や観光地の実務に携わる方の利用はまだそれほど多くありません。今後、より観光の実務の参考文献の収集や当館を活用した地域の情報発信の場として積極的にご活用いただければと思っています。

なお、当館をよく利用される方を対象に希望者に発行している「たびとしょカード」の発行者数は、8月末までで326人となりました。本カードをお持ちになると、再来館時の利用申請手続きが簡易になるほか、当財団および図書館からのメールニュースを定期的にお届けするなど便利ですのでぜひお勧めいたします。



2. 図書・資料の受け入れと利用(閲覧)

当館では毎月、新刊図書を中心に観光関連図書やガイドブック、当財団調査報告書等100～150冊ほどの受け入れを行っています(非公開資料を含む)。この11ヶ月間では、未登録であった資料や寄贈図書の受け入れも多く、約1,700冊が当館の蔵書に加わりました。

また、当館では今のところ外部への貸し出しは行っていませんが、メインライブラリーの蔵書を対象にした閲覧記録によると、当財団の研究者を含めた利用者全体では、この11ヶ月間に約3,000冊(2,975冊)の図書・資料が閲覧されました(利用者がカウンターに返却した図書・資料に限定)。

閲覧冊数の多い資料を挙げると、全体では統計資料や

古いガイドブック・雑誌などが多く閲覧されました(表1)。個別に見ると、①『るるぶ情報版(バックナンバー)』(260冊)、②『旅行年報』(88冊)、③『トラベルジャーナル(バックナンバー合本)』(52冊)の順となっています。統計資料は観光研究を進める上で欠かせない資料ですが、当館の特徴的な蔵書である古いガイドブックや観光関連雑誌のバックナンバーなども、観光地の変遷や観光産業の歴史を研究する上でよく閲覧されていることがうかがえます。

閉架資料を含め閲覧申請が必要な資料については、デジタルコレクション『ツーリスト』・『旅』(53人)、古書・稀観書(37人)、1985年以前の時刻表(31人)、都道府県別の観光統計(8人)等で、当館所蔵の貴重資料も多数の方にご利用いただきました。

表 ① よく閲覧された資料 (10冊以上)

順位	資料名	著者/出版社	資料の種別	閲覧冊数
1	るるぶ(情報版)	JTBパブリッシング	雑誌(バックナンバー)	260
2	旅行年報	(公財)日本交通公社	観光統計	88
3	トラベルジャーナル	トラベルジャーナル	雑誌(バックナンバー合本)	52
4	観光白書	観光庁	観光統計	38
4	ポケットガイド	日本交通公社出版事業局	ガイドブック(バックナンバー)	38
6	新日本ガイド	日本交通公社出版事業局	ガイドブック(バックナンバー)	33
7	日本観光研究学会 全国大会 学術論文集	日本観光研究学会	学術誌	22
7	日本国有鉄道百年史(全18巻)	日本国有鉄道	基礎文献	22
9	地球の歩き方	ダイヤモンド・ビッグ社	ガイドブック(バックナンバー)	21
10	観光の実態と志向	日本観光振興協会	観光統計	20
10	JNTO訪日旅行データハンドブック	日本政府観光局	観光統計	20
12	データで見る訪日インバウンド市場トレンド	JTB総合研究所	観光研究(T分類)	15
12	都道府県入込資料 ※閉架資料	各都道府県	観光統計	15
12	エース JTB 合冊版	ジェイティービー	旅行商品(パンフレット)	15
15	エース JTB 日本の旅	ジェイティービー	旅行商品(パンフレット)	14
15	レジャー白書	日本生産性本部	観光統計	14
15	月刊るるぶ	日本交通公社出版事業局	雑誌(バックナンバー合本)	14
18	日本のオンライン旅行市場調査	ブックウェイ	観光研究(T分類)	13
18	温泉	日本温泉協会	雑誌(バックナンバー合本)	13
18	ロンリープラネット	Lonely Planet Publications	ガイドブック(バックナンバー)	13
21	JTB REPORT	JTB総合研究所	観光統計	12
22	訪日外国人の消費動向	観光庁	観光統計	10
22	旅と生活の未来地図	ジェイティービー	観光統計	10
22	新ポケット温泉案内	日本交通公社	古書・貴重資料	10

3. 企画展示

館内では、各所で当財団の研究成果や当館の蔵書を紹介する企画展示を行ってきました。1階のギャラリーでは、「観光資源の評価」「機関誌観光文化40年のあゆみ」「温泉まちづくり研究会9年間の歩み」「インバウンド市場の動向」などをテーマとしたパネル展示や「近代日本における旅行案内書の変遷」などをテーマにした古書紹介を行ってき

ました。ガーデンラウンジでは、当財団がお勧めする「一度は読みたい観光研究書&実務書100冊」や「旅心を誘う、旅の本のレジェンド30選」などを引き続き展示しています。

また地下1階メインライブラリーでは、当財団専門委員が選ぶ「わたしの一冊」(本誌連載中)や、本誌各号の特集テーマに合わせた関連図書のウォール展示も開始しました。

4. 知見やネットワークを共有する観光の研究・情報プラットフォームとしての図書館利用

図書空間を活用した多様な研究者・実務者の交流の場の創出は、当館の目指す方向の一つで、メインライブラリー全体を活用した会議の開催は延べ17日を数えます(土・日開催を含む)。また旧館時代の2015年度からスタートした「たびとしょCafe」は、リニューアル開館後も継続的に開催し

ており、これまでの開催回数は2017年8月までに10回を数えます。当館の交流イベントとして定着するとともに、回を重ねるごとに図書館とゲストスピーカー、参加者等のネットワークが広がりをを見せています(過去の「たびとしょCafe」の開催概要は、本誌の活動報告やホームページをご参照ください)。

5. トピッカー国連世界観光機関(UNWTO)の「寄託図書館」認定

当館は、2017年3月、国連世界観光機関(UNWTO)の「寄託図書館」に認定されました(国内では立教大学新座図書館に次いで2館目)。現在館内メインライブラリーに

は、UNWTOの刊行物を集めたコーナーを設置しています。今後、国際的な統計をはじめとした主要統計や特定テーマのレポート類などのさらなる充実を図り公開してまいります。

6. 専門図書館としてのさらなる機能充実と魅力向上に向けて(おわりに)

旅の図書館は、移転まで約2年半の準備期間を経てリニューアル開館しましたが、目指す図書館の実現に向けては、ようやくその基盤ができたばかりの段階です。安定的な運営体制の確立、レファレンス機能の強化、資料のアーカイブ化等々、取り組むべき課題は少なくありません。

開館後の図書館に対しては、皆様から様々なご感想、ご意見(要望)をいただいております(表2)。こうした皆様の

声を参考にさせていただきながら、当館の目標である「観光研究の種をまく図書館」、「観光の実務者に実践のヒントを提供できる図書館」、そして「観光の研究・情報のプラットフォームとなる図書館」に少しでも近づくべく、これからも取り組んでまいります。

引き続き運営へのご支援・ご協力を賜りますとともに、皆さまのご来館をお待ち申し上げます。(おおすみ かずし)

表 2 旅の図書館にいただいた感想・要望(抜粋)

感想

- 旅の専門図書館としての役割をこれからも続けてほしい。
- 日本唯一の旅の観光図書・資料館として大いに期待。
- 日本に一つしかない。これからも継続して蔵書を増やしてほしい。50年後、100年後、すばらしい財産になる。
- 興味ある図書が豊富にあり、今後、仕事・プライベート両面で是非利用したい。
- 旅行会社とは別の切り口での情報発信に期待。
- 図書館を使いたくなりました。観光、地域活性化のネタなら「旅の図書館」という知名度になればいい。
- 旅・観光の情報拠点、発信基地として、開かれた場であってほしい。
- 「動き」のある図書館づくりを志向されたい。「本があり、見せるだけ」の図書館ではもったいない。
- 貴重書の公開は専門図書館としてすばらしい取り組み。
- 自治体からの派遣職員にもぜひすすめてほしい。
- 資料収集もさることながら、企画展、たびとしょCafeなど「旅の知のセンター」となるよう期待。
- 観光系学部等の大学生との交流がもっと発生すると、将来の観光人材のためにも良いのでは。

要望

- 日本の観光資料の拠点となってほしい。
- 旅行、観光、交通に関するデータベースとして機能してほしい。
- 利用時間、目的等の拡大。
- ぜひ週末も開館してほしい。土日どちらかでも利用可能だとありがたい。
- 土日祝の開館、オンラインメディア(記事)の館内閲覧環境の整備。
- 一般的に市販されていない書籍を充実してほしい。
- 海外の研究機関などでの観光研究の動向なども情報発信してほしい。
- 海外の研究書を増やしてほしい。目指せコーネル大学図書館。
- 貴重本、古書の充実。
- 調査報告書・統計類の収集にも力点を置いてほしい。
- 経年的な資料を今後もしっかり守ってほしい。
- 研究会や異業種交流会などの利活用。学生ゼミなどの開催への便宜を図ってほしい。
- 社会人もさることながら、学生が旅の図書館を利用し、ツーリズム産業に興味をもってもらいたい。
- WiFi(Free)環境の整備。
- 旅の本の推薦リストを作ってほしい。
- 図書の貸出。
- 展示物をもっと増やしてもらえると興味がより深まる。
- 所蔵資料を活用した展示会等、公開の機会を増やしてほしい。